

## 2011年4月、学校法人東洋大学は、 学校法人京北学園と法人合併します。

京北高等学校、京北学園白山高等学校、京北中学校、京北幼稚園は、東洋大学の創立者である井上円了が創設した学校です。戦後、学校法人京北学園として分離独立し経営されてきましたが、経営基盤の安定化と設置する学校の持続的な発展を期するために、このたび法人合併し、経営統合を図る合意に至ったものです。

これにより、学校法人東洋大学は、1大学、4高等学校、1中学校、1幼稚園を経営する法人として、その責任を担っていくこととなります。

合併に伴い、狭隘な京北学園の中学・高等学校の教育環境を整備するものとし、白山第2キャンパスを中学・高等学校の校地として再開発することを計画しています。その条件を整備するため、新たに取得した大学キャンパス用地（旧赤羽台中学校跡地）を有効活用し、2011年4月から2015年3月までの4年間、京北学園の中学・高等学校の教育をこの地で実施します。

## 白山キャンパスの教育・研究施設の 充実を図り、国際地域学部・法科大学院等の 教育・研究を移転します。

現在、京北学園の中学・高等学校のある土地は、本法人が所有しています。京北学園中学・高等学校の移転に伴い、この土地を東洋大学の敷地として活用し、新たに「125周年記念研究棟（仮称）」を建設するとともに、既存建物の改修等を行い、白山キャンパスの施設充実を図ります。

これにより、現在白山第2キャンパスで行っている国際地域学部、大学院国際地域学研究科、法科大学院の教育・研究を、2013年4月から白山キャンパスで行う予定です。

## 2017年4月から、総合情報学部の教育・研究活動を 「赤羽台キャンパス（仮称）」で展開します。

取得した赤羽台の校地は、2015年4月から2年間かけて大学の新たなキャンパス「赤羽台キャンパス（仮称）」として開発し、2017年4月より、現在川越キャンパスに設置されている総合情報学部の教育・研究活動を展開していきます。

これは、国際的な競争となっている情報通信技術（ICT）を活用する新しい分野の開拓と、それを担う人材育成を目的とする当学部の教育・研究活動をより発展・充実させ、新しい学問分野を開拓するためには、様々な情報が集まり、企業等との連携も取りやすい都心部への移転が適切であると判断したからです。

なお、北区は大学誘致とともに、産学官連携を強く望んでおり、本法人としても総合大学としての知的資産を活かした「ワンストップサービス窓口（仮称）」を北区と連携して2011年度から開設し、

これまでになく新しい地域連携を構築していく計画です。



所在地：東京都北区赤羽1-7-12  
JR赤羽駅 徒歩8分／東京メトロ南北線 赤羽岩淵駅 徒歩12分

学校法人東洋大学は、設置する大学および高等学校の発展・充実を図るため、①大学機能の都心部への移転・集中、②各学校の教育および研究環境の整備・充実、③中等教育機関の充実と中等教育と高等教育の連携の強化、を基本方針として、さまざまな施策に継続して取り組んできました。

こうした中で、このたび、東京都北区赤羽台に新たな大学キャンパス用地（旧赤羽台中学校跡地）を確保することができました。また、「学校法人京北学園」と法人合併することの合意に至りました。このことにより、東洋大学の教育・研究環境整備計画が大きく動くこととなります。

# 総合学園計画

Toyo University  
125<sup>th</sup>  
Anniversary

## について

### schedule

あくまで現在予定されている計画であり、変更されることもあります。

#### 2011年4月

学校法人京北学園と法人合併、高校・中学を仮称・赤羽台キャンパス（旧赤羽台中学校跡地）に移転し、仮校舎として利用（～2015年3月）  
京北学園移転後の校地を活用し、白山キャンパスの新たな施設整備を開始（～2012年11月）

#### 2012年度内

白山キャンパス既存建物の改修工事を実施

#### 2013年4月

白山キャンパスにて国際地域学部・国際地域学研究科・法科大学院の教育研究活動を開始

#### 2015年4月

仮称・赤羽台キャンパス（旧赤羽台中学校跡地）の既存建物の解体および大学新校舎の建設を開始、大学キャンパスとして開発

#### 2017年4月

総合情報学部および大学院（設置予定）の教育研究活動を仮称・赤羽台キャンパス（旧赤羽台中学校跡地）で開始

※このほか、附属高校に関わる改革などを含む「総合学園計画」について、引き続き大学ホームページおよび「東洋大学報」、学内掲示等でお知らせしてまいります。